

平成29年度 自己評価・学校関係者評価結果公表シート

学校法人 子宝幼稚園

1. 本園の教育目標

“よく遊び よく学ぶ 瞳輝く子ども”を育てる為に、子宝を愛情をもって、優しく厳しく
教え育む。教職員が、チームワークを大切にしながらも、子どもの為に切磋琢磨し、
幼児教育に自信のもてる幼稚園を目指す。

2. 本年度、重点的に取り組む目標・計画

- ・子ども子育てシステムの検討
- ・幼稚園教育要領の改訂に伴い、保育カリキュラムの見直し
- ・教職員のチームワークの向上
- ・長期預かり保育の実施

3. 評価項目の達成及び取組状況

評価項目	取組状況
・子ども子育てシステムの検討	様々検討する中で、第1期の移行期間(H27～31)での新制度園は見送った。堺市に於いても、約半数の状況であり、今後、更に進むとは思いますが完全移行は全国的にも厳しい様に思われる。何が移行の障害となっているのか？今後も子ども目線でありたい。
・幼稚園教育要領の改訂に伴い、保育カリキュラムの見直し	勉強会や研修に参加する事により、確実にアクティブラーニングの理解を深めつつあるが、まだ不十分であり、更なる学びを必要と感じる。
・教職員のチームワークの向上	人手不足の時代、正職員、時短、パートと働き方も多様になる中で、良き先生の確保に柔軟な体制とした。それに伴い、役割分担や情報の共有や連絡等、より大切にしたい。
・長期預かり保育の実施	多くの方が望まれていた様で、希望者が大幅に増えて便利に活用され、実施して良かったと感じる。只、預かりが不必要な子どもが常に預けられる施設も多くあると聞くのは、子どもにとって悲しい事である。

4. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

施設・設備面では、環境整備に力を入れた。教育面に於いては、園としての目標、各個人の目標、課題が明確となり、その克服に向けて教職員が一丸となって達成していく。

5. 今後取組むべき課題

課題	具体的な取組方法
カリキュラムの検討	学習指導要領が大きく改訂される中で、本園の培ってきた理念や教育課程を基本に、組み立てていきたい。その為にも、毎月カリキュラム会議を行い、子どもの実態を話し合い、全員が共通理解を図り、指導計画の訂正・加筆を行っていく。
園の活性化	経験のある先生がリードをしてくれ、指導も安定感がある様に思う反面、中堅の先生が頼り過ぎてしまったり、惑いはその能力を発揮出来ない。又、ややマンネリ化している様にも感じる。その為に、職員の配置等で活性化を図りたい。
国の無償化等に向けて	近隣に認定子ども園の新設や移行が進んでいる。又、H31年の10月から消費税の増税に伴い、上限はあるものの3、4、5歳児の無償化が予定され、待機児童対策が大きく前進されそうである。来たるべき時代の大きな岐路の中で本園の歩みを固めたい。

6. 学校関係者の評価

・園庭の広さ、遊具のクオリティなど非常に子どもの発達段階に適した環境を整えている。職員の教育にも熱心であり、園児達と先生方が活発にコミュニケーションを取り、日々の保育が充実している。

・色々と変化する中で、子宝幼稚園の良い所を残しつつ、今後も子ども達一人一人が輝く幼稚園であって欲しい。

7. 財務状況

公認会計士監査より、適正に運営されていると認められている。